頭陀袋 (72)

平成三十年六月号

発行　中山かんのん

恩林寺

中山中学下、電話三四―一二四五

人に生まれるは難く
今、命在るは有難く
世に仏あるは難く
仏の教えを聞くは有難し（法句経より）

人生は、なかなか思い通りにはなりません。何かあるたびに私たちは憂い、悲しみ、悩みます。

こうした心の傷が避けられないものだとしたら、いったい、どうすればよいのでしょうか。仏陀の教えはそんな私たちを前向きにしてくれるのです。どうしても避けられないことは「無常の現実」として受け止めるしかありません。でも、無常なる現実をただ嘆くのでなく、これも人生のありかたなのだと受け止め、それを乗り越えていく強さを持つように、と、説いているのです。「安心」という言葉があります。読んで字のごとく心の安らぎのことです。

実はこの安心というのは仏教用語で、「あんしん」ではなく、「あんじん」と、読みます。意味も少しちがっていて、こころに何の迷いもない不動の境地を「あんじん」と言います。

人生を前向きに生きていく知恵と力を備えつつ、喜怒哀楽の出来事を、喜びをもって受け止める生き方を、仏教では「安心の人生」と、言っています。

しかしそのように生きるのは、大変難しい。悲しさや苦しさを喜んで受け止めるには、自らの努力だけでなくいい縁に恵まれることも必要です。

難しいだけに、なかなか「有難い」ことであり、もしも、そのように生きられるのであればそれこそ「有難い」というほかありません。

その有難さに気づいた人は、生まれた縁を喜び、仏の教えに出会えたことを感謝するでしょう。

そして、このような生き方が可能となるのは、私たちが、人間として生まれてきたからなのです。

お施餓鬼のお知らせ

私ども黄檗宗の第十八教区（岐阜県内）には約二十ヶ寺のお寺がありますが、毎年六月末から八月末まで回り持ちでお施餓鬼法要を勤めます。

今年は、恩林寺は七月一（日）午前十一時より区内の和尚様方が随喜してくださいます。

お施餓鬼のいわれはアナン尊者の焔口（えんく）の故事や、目連尊者の母の地獄よりの救いの故事が解説されますが、私たちのご先祖を思い、ご供要する法要です。私たちは現実には行動に表しませんが、こころの片隅に、地獄、餓鬼、畜生の醜い心を持ち合わせています。祖先のご供養とともに、この法要を通じて、懺悔（反省）の心を養いたいものです。法要の要旨は来月、改めてご案内いたします。